北野先生

担当教科：数学

あなたは、昔から教師ドラマが大好きだった。
ドラマの中の教師たちは生徒の悩みに時には寄り添い、時にはぶつかり、
そして最後には生徒たちを最高の笑顔に導いた。
自分もそんな教師になりたい、あなたは自分の人生の進路を迷いなく選び、
そして大学を卒業後、念願の教師となって、地元の高校で働き始めた。

しかし現実は甘くなかった。

あなたの情熱は誰にも受け止めてもらえずに空回り、
あなたの言葉は生徒に揚げ足を取られて笑いものにされ、
あなたの行動は親や教師仲間から眉をひそめられた。
夢の職業に就いたのに、そこにあった現実はあなたの理想とはかけ離れていて、
あなたは次第にその現実に打ちのめされていく。

だんだんと周りの様子を伺って行動し、
求められる言葉を無難な態度で伝えるような人間になっているのを自覚をしているが、
今のあなたの中にはそれを打ち破るような熱い情熱はない。

ただ、いつか生徒たちとしっかり向き合えるような機会があるかもしれない。
そう思ったあなたは、生徒たちの様子を観察し、
気になった点を自分の手帳に書き込んでいる。

それは、かつて抱いた夢に対する贖罪の思いもあったのかもしれない。
情けない自分に対しての言い訳という意味もあったかもしれない。
しかし、その手帳をつけるために生徒1人1人をしっかり見ていると、生徒たちは表に出さないだけで、
心の中に小さな不満や思いを澱のように溜め込んでいることに気づけるようになった。

きっと今なら、もっと上手に生徒たちと付き合っていけるような気もするが、
周りから情けない教師として見られている自分がいきなり情熱をぶつけてもビックリされるだけだろう。

情けないが、そういう生き方をしてきてしまったんだから仕方ない。
せめて、生徒の夢を邪魔しない、そんな教師として生きていこう。